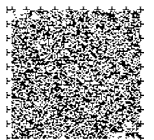




第7章

多様な主体との連携



- RWC2019の成功は、他の開催都市や都内区市町村、民間事業者など多様な主体が様々な取組を行い、「ONE TEAM」となって連携することで成し遂げられた。
- 各開催都市については、開催自治体協議会等を通じた連携・協力をを行い、大会成功に向けて活動した。また、テストマッチの機会等を捉え、ともに大会気運の醸成を図った。大会期間中は、ファンゾーン区部会場への各開催都市のPRコーナーの設置など、国内外からの来場者に各都市の魅力を発信するとともに、大会の盛り上げを全国に波及できるよう取り組んだ。
- 都内区市町村については、首長会等を通じて大会準備に関する協力依頼や情報提供などを行った。各区市町村による大会関連イベントや都市装飾等、大会に向けた準備や気運醸成など様々な取組が行われた。
- 多くの民間事業者とも連携し、大会の気運醸成や大会準備・運営など、様々な取組を行った。

※本章内で記載している各事業は、各章に記載しているものを再掲

1 大会の成功につなぐ様々な取組

RWC2019は、日本代表の活躍もあり、日本中が大いに盛り上がった。都内においても、スタジアムやファンゾーンをはじめ、様々な場所が連日多くの国内外の観客等で賑わった。

こうした大会の成功は、組織委員会や都による取組だけではなく、他の開催都市や都内区市町村、民間事業者など多様な主体が様々な取組を行い、「ONE TEAM」となって連携することで、相乗効果を生み、成し遂げられたものである。

2 各開催都市との連携

(1) 開催自治体協議会

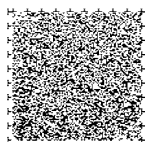
12開催都市を構成する19自治体が相互に連携・協力し、大会の準備を円滑に進め、大会を成功させることを目的に、2015（平成27）年7月にRWC2019開催自治体協議会が設立され、東京都知事が会長に就任した。その後、2017（平成29）年5月には、横浜市長が同会長に就任した。

協議会では、大会の気運醸成やラグビーの普及啓発・競技力向上に向けた取組などについて、国等に要望を行った。また、全国自治宝くじ事務協議会への資金協賛の要望を実施し、2016（平成28）年度から2019（令和元）年度までの4年間で、組織委員会に対し、計100億円の資金協賛を得るなど、大会成功に向けた活動を行った。

(2) 気運醸成等

都民・国民の関心が高まるラグビーテストマッチの機会を活用し、各開催都市と連携した取組を行った。

東京スタジアムで開催されたテストマッチでは、各開催都市のPRブースを設置し、観客に全国の試合会場を広く紹介するとともに、他開催都市からの視察を受け入れ、実施イベントや交通輸送の取組状況を説明するなど、大会に向けた準備状況の共有を行った。



- ・ 2016（平成 28）年 6 月 25 日（土） 日本代表 対 スコットランド代表
- ・ 2017（平成 29）年 6 月 24 日（土） 日本代表 対 アイルランド代表
- ・ 2018（平成 30）年 11 月 3 日（土・祝） 日本代表 対 ニュージーランド代表

また、他の開催都市で開催されたテストマッチでは、都内でパブリックビューイングイベントを開催し、当該都市と一体となって RWC2019 の気運醸成を図った。

＜都内パブリックビューイングイベント（他開催都市が会場のテストマッチ）＞

日程	都内パブリックビューイング会場	試合会場（開催都市）
2016（平成 28）年 6 月 18 日（土）	汐留シオサイト地下歩道（港区）	豊田スタジアム（愛知県・豊田市）
2017（平成 29）年 10 月 28 日（土）	町田ターミナルプラザ 2 階（町田市）	東平尾公園博多の森球技場（福岡県・福岡市）
2017（平成 29）年 11 月 4 日（土）	日比谷公園にれの木広場（千代田区）	横浜国際総合競技場（神奈川県・横浜市）
2018（平成 30）年 6 月 16 日（土）	ベルサール秋葉原（千代田区）	神戸市御崎公園球技場（神戸市）
2018（平成 30）年 6 月 23 日（土）	調布駅前広場、イオンシネマシアタス調布（調布市）	豊田スタジアム（愛知県・豊田市）
2019（令和元）年 7 月 27 日（土）	町田シバヒロ（町田市）	釜石鶴住居復興スタジアム（岩手県・釜石市）
2019（令和元）年 8 月 3 日（土）	歌舞伎町シネシティ広場（新宿区）	東大阪市花園ラグビー場（大阪府・東大阪市）
2019（令和元）年 9 月 6 日（金）	調布駅前広場（調布市）、 日比谷公園にれのき広場（千代田区）	熊谷ラグビー場（埼玉県・熊谷市）

さらに、大会期間中は、ファンゾーン区部会場に各開催都市の PR コーナーを設置し、物産販売も行うなど、国内外から訪れた来場者に各都市の魅力を発信し、大会の盛り上げを全国に波及できるよう取り組んだ。

（3）他開催都市の取組

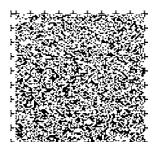
大会期間中に、東京以外の 11 会場のうち 7 会場について、試合会場、ファンゾーン等の視察を実施した（台風 19 号の影響等により 4 会場は未実施）。それぞれの会場において、交通輸送やファンゾーン等、各開催都市の状況に応じた様々な取組が行われていた。

ア 札幌市（札幌ドーム）

（ア）視察対象試合

試合日時：2019（令和元）年 9 月 22 日（日）19 時 15 分キックオフ
（イングランド 対 トンガ）

入場者数：35,923 人



(イ) 取組例

- ・ 通常のイベント時には有料で運行している試合会場と市内4駅を結ぶシャトルバスを無料にするとともに、大会用に試合会場とファンゾーンを結ぶ便を特別に用意することで、交通分散を促進
- ・ ファンゾーンの札幌大通公園の会場周辺では、札幌市と札幌観光協会による「さっぽろオータムフェスト」を開催し、面的な盛り上がりを創出
- ・ 「街中コンシェルジュ」としてボランティアを札幌駅中心に配置し、街中案内やフォトフレームによるおもてなしを実施



シャトルバス乗降場



街中コンシェルジュ

イ 埼玉県・熊谷市（熊谷ラグビー場）

(ア) 視察対象試合

試合日時：2019（令和元）年9月24日（火）19時15分キックオフ
（ロシア 対 サモア）

入場者数：22,564人

(イ) 取組例

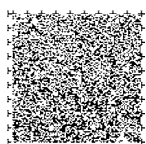
- ・ 熊谷駅前やラストマイル、ファンゾーン等各所において、市内各地域の山車が来場者を歓迎
- ・ 試合会場の最寄りである熊谷駅から試合会場までは徒歩で約50分かかるため、ラストマイル周辺の店舗等を掲載した「ラグビーロードマップ」を配布し、散策しながらの徒歩での来場を促進
- ・ 熊谷駅から徒歩8分のファンゾーン会場脇に試合会場への直行シャトルバス乗降場を設け、入場時観客を円滑に輸送。また、退場時についても、シャトルバス乗降場に熊谷駅行きの複数のレーンを作り、十分な台数のシャトルバスで多くの観客をシステムチックに輸送



市内各地域の山車



ラグビーロードマップ



ウ 静岡県（小笠山総合運動公園エコパスタジアム）

（ア）視察対象試合

試合日時：2019（令和元）年10月11日（金）19時15分キックオフ
（オーストラリア 対 ジョージア）

※台風19号接近に伴う暴風雨により、駿府城公園のファンゾーンは中止し、視察はハーフタイムまでとした。

入場者数：39,802人

（イ）取組例

- ・ シャトルバスの待機列周辺に、地元産品であるお茶の紹介コーナーを設けて来場者にお茶を振る舞うなど、おもてなしとPRを組み合わせて効果的に実施
- ・ ファンゾーンのほかに、独自でスタジアム周辺に観客向けのおもてなしエリアを設け、地元自治体等による賑わいを創出



地元自治体PR



おもてなしエリア

エ 大阪府・東大阪市（東大阪市花園ラグビー場）

（ア）視察対象試合

試合日時：2019（令和元）年9月28日（土）13時45分キックオフ
（アルゼンチン 対 トンガ）

入場者数：21,917人

（イ）取組例

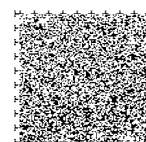
- ・ 試合会場の最寄りである東花園駅前のロータリーにおいて、退場時は臨時の迂回路を設定して駅構内への入場者数をコントロールすることで、円滑に誘導
- ・ ファンゾーンの大阪天王寺公園エントランスエリア（てんしば）の会場では、ステージ上部にモニターが設置されており、会場後方まで視界を確保



退場時の駅前ロータリー



ファンゾーンの大型モニター



オ 神戸市（神戸市御崎公園球技場）

（ア）視察対象試合

試合日時：2019（令和元）年10月8日（火）19時15分キックオフ

（南アフリカ 対 カナダ）

入場者数：28,014人

（イ）取組例

- ・ 試合会場の最寄駅である御崎公園駅からスタジアムまでの動線において、片側の歩道のみを観客を誘導し、車道との境界にはロードコーン等を設置して乱横断を防止することにより、円滑に移動
- ・ 退場時は、試合会場がある御崎公園の敷地から外に出る際に退場規制を実施
- ・ ファンゾーンでは、平尾誠二氏の足跡をパネル、映像等で伝える展示が実施されており、多くの観客に同氏の功績とラグビーの魅力を発信



規制退場



平尾誠二氏に関する展示

カ 福岡県・福岡市（東平尾公園博多の森球技場）

（ア）視察対象試合

試合日時：2019（令和元）年9月26日（木）16時45分キックオフ

（イタリア 対 カナダ）

入場者数：16,984人

（イ）取組例

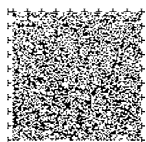
- ・ 試合会場の最寄駅である福岡空港駅から試合会場まで徒歩で約25分かかるが、案内スタッフやサインを多数配置し、丁寧に誘導
- ・ 退場時は、福岡空港駅へ向かう徒歩動線と反対方向にシャトルバスの乗降場を設定することで人の流れを分割し、円滑な移動を確保



ラストマイルの案内サイン



退場時の誘導



キ 大分県（大分スポーツ公園総合競技場）

（ア）視察対象試合

試合日時：2019（令和元）年10月2日（水）19時15分キックオフ
（ニュージーランド 対 カナダ）

入場者数：34,411人

（イ）取組例

- ・ 試合会場から徒歩圏内に鉄道駅がなく、シャトルバスがメインのアクセス手段となるため、大分駅において、十分なシャトルバスの台数と待機列スペースを確保
- ・ 大分駅から徒歩すぐの場所にファンゾーンがあり、シャトルバス乗り場と隣接しているため、「ファンゾーンに寄ってからスタジアムへ」という観客の流れを形成
- ・ ファンゾーンにおいては、屋内の大型ビジョンによるパブリックビューイングだけでなく、屋外のレストエリアにもテレビサイズのモニターを設置して観戦できるようにするなど、多様な観戦スタイルを提供



シャトルバスの待機列スペース



屋外レストエリア

3 都内区市町村との連携

都内区市町村に対して、区長会、市長会、町村会等を通じて、東京スタジアムで行われるテストマッチ開催に合わせた気運醸成など、大会準備に関する協力依頼や情報提供などを行った。

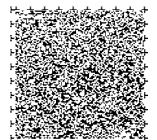
各区市町村は、都と連携・協力した取組を実施するとともに、独自に大会の気運を醸成するなど、都内における大会の盛り上げを図った。

（1）区市町村との連携による都の取組

- ・ ラグビーテストマッチに合わせて開催したイベントにおける地元3市によるブース出展など、連携したイベント運営
- ・ 街灯フラッグの掲出や庁舎への懸垂幕の掲出など、都市装飾による大会気運の醸成
- ・ ファンゾーン会場におけるPRエリアでの都内区市町村の魅力発信
- ・ 地元3市を含む「東京スタジアムの会場周辺及びアクセス検討プロジェクトチーム」での交通輸送の検討や公認チームキャンプ地誘致等、連携した準備・対応

試合日	対戦相手	開場時間	試合開始時間	試合終了時間	備考
10月19日	ニュージーランド	18:00	19:15	21:00	開場時
10月20日	フランス	18:00	19:15	21:00	開場時
10月21日	南アフリカ	18:00	19:15	21:00	開場時
10月22日	ウェールズ	18:00	19:15	21:00	開場時
10月23日	イタリア	18:00	19:15	21:00	開場時
10月24日	スコットランド	18:00	19:15	21:00	開場時

近隣住民への周知チラシ



- 東京スタジアムの近隣住民に対する、地元3市及び組織委員会と連携した大会開催への理解と協力をお願い

- 試合会場内における演出やイベント等による音出し
- 大会関係車両や観客による混雑
- 交通規制 など

(2) 区市町村による取組

- 各区市町村において、大会の気運醸成を図るため、独自にRWC2019の関連イベントやPR活動、都市装飾を実施

<区市町村による主なイベントやPR活動>

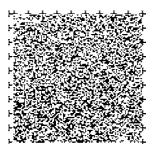
※RWC2019の名称やロゴを活用した事業

区市町村名	取組内容
文京区	カウントダウンイベント、クリアファイルの作成、広報紙への掲載等
墨田区	100日前イベント、東京スカイツリーライトアップ
目黒区	RWC2019 啓発イベント
練馬区	広報紙への掲載
武蔵野市	武蔵境ラグビーボールモニュメント完成披露セレモニー
府中市	500日前・100日前記念フォーラム、「ラグビーのまち府中デー」でのPR
昭島市	広報紙への掲載
調布市	ラグビースクラムフェスティバル、広報紙への掲載、カウントダウンボードの制作等
町田市	講演会「RWC2019に向けて」
狛江市	大畑大介さんの親子ラグビー教室
稲城市	稲城市ラグビー祭り
西東京市	広報紙への掲載
奥多摩町	ウォーキングイベントでのPR

<区市町村による主な都市装飾>

※RWC2019の名称やロゴを活用した事業

区市町村名	取組内容	装飾場所
港区	のぼり旗等	パブリックビューイング会場
台東区	街灯フラッグ、のぼり旗、横断幕	パブリックビューイング会場
墨田区	のぼり旗	東京スカイツリータウン
中野区	のぼり旗、横断幕等	中野駅東西連絡路、パブリックビューイング会場
北区	のぼり旗	パブリックビューイング会場
練馬区	壁面シート	区役所
武蔵野市	横断幕、地上機器ラッピング	市内駅
青梅市	地上機器ラッピング	市役所、青梅駅前
府中市	ラッピングバス、地上機器の装飾	府中市内、けやき並木通り
昭島市	街灯フラッグ	パブリックビューイング会場、主要幹線道路、市役所
調布市	駅装飾、懸垂幕、横断幕、ウォールギャラリー、調布駅装飾	調布駅、市有施設等



町田市	街灯フラッグ、横断幕	町田駅周辺等
日野市	街灯フラッグ、のぼり旗、横断幕	パブリックビューイング会場、市有施設
狛江市	のぼり旗、ボールモニュメント	パブリックビューイング会場、市役所、狛江駅
西東京市	懸垂幕	パブリックビューイング会場



東京スカイツリータウン（墨田区）

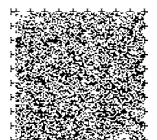


中野駅東西連絡路（中野区）

- ・ 区市町村において、大会期間中、地域の盛り上げを図るため、独自にパブリックビューイングを実施（10区10市）

<区市町村によるパブリックビューイング>

区市町村名	開催日数	開催場所
港区	4	品川インターシティ、トレードピア、DECKS 東京ビーチ、区立芝公園
新宿区	14	伊勢丹新宿店本館屋上、歌舞伎町シネシティ広場
文京区	1	東京ドームシティアクアガーデン
台東区	2	御徒町南口駅前広場
墨田区	6	東京スカイツリータウン®スカイアリーナ
中野区	1	中野体育館
杉並区	1	セノンスポーツゼロ
北区	5	赤羽体育館
練馬区	3	石神井区民交流センター、ココネリホール、練馬文化センター
足立区	1	足立区役所
武蔵野市	4	境南ふれあい広場公園、武蔵野陸上競技場、武蔵野総合体育館
三鷹市	2	三鷹駅前コミュニティ・センター
青梅市	1	青梅市文化交流センター
府中市	11	けやき並木通り、府中市市民活動センター
昭島市	1	栗田工業昭島グラウンド
町田市	3	町田ターミナルプラザ市民広場、町田市生涯学習センターホール、和光大学ポプリホール鶴川
日野市	2	ひの煉瓦ホール小ホール（日野市民会館）、イオンモール多摩平の森
国分寺市	1	cocobunji プラザリオンホール
狛江市	3	狛江エコルマホール、狛江市えきまえ広場
西東京市	1	ASTA 西東京





区立芝公園（港区）



cocobunji プラザリオンホール
（国分寺市）



狛江エコルマホール（狛江市）

- ・ 公認チームキャンプ地となった武蔵野市、府中市、町田市は、チーム受入に向けた施設整備を実施

＜都内公認チームキャンプ地自治体による主な施設整備＞

区市町村名	主な整備内容
武蔵野市	諸室改修、芝生改良、ラグビーゴール基礎設置
府中市	芝生改良、フェンス設置、夜間照明設置
町田市	ラグビーゴール基礎設置

なお、都は、スポーツ振興等事業費補助の拡充、東京 2020 大会及び RWC2019 開催関連事業費補助の新設により、公認チームキャンプ地整備やパブリックビューイング、都市装飾など、ハード・ソフト両面において、区市町村による大会に向けた準備や気運醸成の取組を支援した。

4 民間事業者との連携

大会の気運醸成や大会準備・運営等において、多くの民間事業者により様々な取組が行われた。

(1) ファンゾーン区部会場と連携し、丸の内エリア等を盛り上げ

大会スポンサーである三菱地所（株）は、丸の内エリアにおいて、RWC2019 を盛り上げる「丸の内 15 丁目プロジェクト」を展開した。

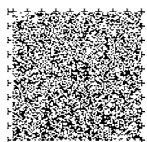
都が丸ビルで開催した 100 日前イベントでの会場協力のほか、同プロジェクトの一環で「丸の内 15 丁目るるぶ」を発行し、ファンゾーン区部会場を含め、丸の内エリアの様々なラグビー情報を掲載した。

また、丸ビルマルキューブにおけるパブリックビューイングの実施や様々なラグビー関連オブジェの展示などにより、大会を盛り上げた。

さらに、銀座エリアでは、地元商店街等の協力を得て、ファンゾーンのチラシをボランティアが配布するなど、ファンゾーンの PR を行い、ファンゾーン区部会場では、周辺地図を配布し、飲食店等の紹介を行うなど、相互に PR を実施し、面的な盛り上がりを創出した。



丸の内 15 丁目るるぶ



(2) 様々な施設等の壁面を装飾し、街中における RWC2019 の雰囲気醸成

大会スポンサーであるキャノン（株）の協力の下、RWC2019 の気運醸成を目的に、ラグビーの迫力ある大型写真を印刷・掲示するプロジェクト「ラグビーウォールギャラリー」を実施した。都内では、34 か所（うち、都との連携は 13 か所）に掲出し、大会を盛り上げた。



スバルビル解体工事仮囲い
(新宿駅西口)



調布駅前広場

(3) 多くの来場者で賑わう施設を装飾し、RWC2019 を PR

日本空港ビルデング（株）の協力を得て、東京の玄関である羽田空港国内線旅客第 1・第 2 ターミナルを大会のカラーで装飾し、日本全国から訪れる観戦客を迎え入れた。また、（株）東京国際フォーラムの協力を得て、ファンゾーンのある有楽町と丸の内エリアを結ぶ東京国際フォーラムの地上広場や地下 1 階に装飾を行い、多くの来場者に大会を PR した。



羽田空港国内線第 2 ターミナル



東京国際フォーラム地上広場

(4) 商店街に街灯フラッグを掲出し、地域の気運を醸成

東京都商店街振興組合連合会及び東京都商店街連合会等の協力を得て、2018（平成 30）年 11 月に東京スタジアムで開催されたラグビーテストマッチの機会を捉え、都内約 20 エリアの商店街に街灯フラッグ約 4,000 枚を掲出した。

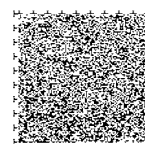
また、大会期間中には、都内全域の約 1,100 の商店街において、街灯フラッグ約 43,000 枚が掲出された。



大会期間中

(5) 東京スタジアムへの円滑な観客輸送を実現

東京スタジアムは、周辺に鉄道・バス等の公共交通機関が発達している一方、入退場時には、飛田給駅への観客の集中が見込まれることから、京王電鉄（株）により、特急・準特急の飛田給駅への臨時停車及び飛田給駅発の臨時列車の増発が実施された。



また、多様なルートを確保することで試合会場へのアクセスを容易にするとともに、飛田給駅の混雑を緩和するため、西武鉄道（株）による多磨駅における臨時列車の実施や、小田急バス（株）及び京王電鉄バス（株）によるシャトルバスの運行が行われた。これらの交通事業者の取組により、円滑な観客輸送が図られた。

なお、京王電鉄（株）や西武鉄道（株）、小田急バス（株）、京王電鉄バス（株）をはじめとする様々な交通事業者が、電車・バスへの装飾に協力し、大会の気運醸成を図った。



シャトルバスの運行（小田急バス）



電車への装飾（京王線）

（6）RWC2019 を盛り上げ、感動を共有

大会スポンサーである読売新聞社と連携し、RWC2019 特集号を発行し、多くの人々に大会の応援を呼びかけ、大会の盛り上げに取り組んだ。

また、大会期間中の思い出や感動を共有し、魅力を発信できるよう、写真パネルを作成し、写真展を開催したほか、大会を総括し、その熱気や感動を東京 2020 大会につなげるため、大会終了後に RWC2019 記念シンポジウムを開催した。



RWC2019 特集号

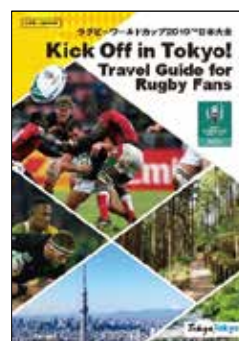
5 庁内各局との連携

大会の成功に向け、産業労働局における RWC2019 向け観光ガイドブックの作成や商店街への街灯フラッグ掲出など、各局においても関連事業を実施するとともに、より一層、事業効果を高めるため、

- ・ 交通局における車体ラッピング
- ・ 下水道局における下水道公共汚水ます蓋への装飾
- ・ 生活文化局におけるファンゾーン等でのヘブンアーティスト出演
- ・ 環境局における「分別ナビゲーター」の配置によるごみ分別促進の取組

など、各局が実施する事業と連携し、気運醸成や大会準備に取り組んだ。

また、大会期間中は、武蔵野の森総合スポーツプラザ内に救護スペースを設置し、病院経営本部の協力を得て、都立病院の医師、看護師を配置したほか、交通輸送、セキュリティ、ファンゾーン等の運営について、東京 2020 大会の都市運営等に関係する各局（総務局、都市整備局、環境局、福祉保健局、病院経営本部、産業労働局、建設局、港湾局、交通局、水道局、下水道局）の職員、延べ 90 人の協力を得て、運営体制を整えた。



RWC2019 向け
観光ガイドブック

